

保育実習 I（保育所）における乳児クラスを担当した学生の 責任実習の有無と実習内容についての一考察

－実習を終えた学生へのアンケート調査を基に－

板倉 史郎*・馬場 住子**

A Study of Ratio of Students in Charge of Infant Classes and Content of Responsible Teaching Practice in Childcare Teaching Practice I (Nursery School): Based on Survey of Students Who Have Completed Teaching Practice

Shiro Itakura, Sumiko Baba

【キーワード】 保育実習, 保育所, 乳児クラス
Childcare Practice, Nursery School, Infant Class

1. 研究の背景と目的

保育者養成校（短期大学）における「保育実習 I（保育所）」は、入学後学生が初めて保育現場において主体的に参加、実践する初めての实習であり¹⁾、学生にとっては大きなハードルと言える。保育実習 I は主に参加型の実習形態が多くみられるが、中には責任実習に挑戦する学生もいる。そこで本研究では、〇短期大学の1回生を対象として、どのくらいの学生が保育実習 I において乳児クラス²⁾における責任実習を経験し、その内容はどのようなものであったかという現状を把握し、一事例を基に今後の実習指導の在り方を検討することを目的とする。

2. 先行研究における知見

筆者らの先行研究（馬場ら 2022）では次のことが明らかとなった。〇短期大学の1回生の「保育実習 I（保育所）」においては、複数クラスを担当する場合、一日以上乳児クラスを担当する学生は95%とほとんどの学生が乳児クラスを担当している。また、実習期間を通じて同じクラスを担当する場合は、1歳児クラス担当が32%と最も多く、2歳児クラス担当が21%と次いで多く、0歳児クラスだけを担当した学生はいなかった。また、学生が体験する保育内容は一日の乳児の生活の流れ全般に渡ることから、食事（水分補給やおやつを含む）や排泄（おむつ替えやトイレでの排泄の援助を含む）、睡眠（午睡）、

所属および連絡先
* 大阪千代田短期大学
* * 関西国際大学

着脱、遊び（室内、園庭を含む）など多岐に渡ることが分かった。

その他の先行研究では責任実習では保育実習 I よりも保育実習 II および幼稚園実習（II）の研究が多く、齊藤ら（2012）は（保育実習 II、教育実習 II において）責任実習の対象は 4、5 歳児が多く、テーマも制作が多い傾向が見られるとしている。山田（2008）は（保育実習 II において）設定保育を 1 回以上行った学生は 88%、内、1 名以外は指導案を作成しており、内容は設定型保育では制作、ゲーム遊び、素材遊び・感覚遊び、音楽リズムなど、主導型保育では手遊び・歌遊び、絵本・紙芝居・エプロンシアター、ゲームなどであったとしている。また、杉山（2005）は実習において学生は、毎日の実習記録など書くという作業に追われるが、中でも指導案を書くということが実習に対する不安事項の代表的な項目であると述べている。そして、（幼稚園実習における）責任実習の実施クラスは年長が一番多く次いで年中であり、時間は平均 1 時間弱、内容では 90% が活動提案型（設定保育）であり（その他は遊びの延長・発展型）、その内 60% が単一型としてフルーツバスケット、スクラッチ、バチック、じゃんけん列車、制作などを行い、40% が複合型として（一例として、魚を作り、魚釣りをするといった「作る」「遊ぶ」といった）二つの活動を行っていることを明らかにしている。さらに、藤崎ら（2018）は（教育実習における）責任実習の計画、実施において、実習全般における実習生の姿勢など多くの項目（保育技術や子ども理解など）と関連しており、実習を通じた体験的学びの集大成を具体的に示すことになると結論付けている。

3. 研究方法

- (1) 調査対象：〇短期大学 幼児教育科 1 回生 保育実習 I 参加学生 79 名
- (2) 調査時期：2021 年 10 月
- (3) アンケートの質問内容：①乳児クラスにおける責任実習の有無②責任実習の内容
- (4) 倫理的配慮：〇短期大学の倫理審査委員会の承認を得られた後、調査対象者にはアンケートについての説明を行い、自由意志による回答であることを伝えた。

4. 調査結果

(1) 責任実習の有無

乳児クラスを担当した学生の内責任実習を行った学生は、0 歳児クラスでは 23 人中 5 名（約 22%）、1 歳児クラスでは 37 人中 18 名（約 49%）、2 歳児クラスでは 40 人中 21 名（約 53%）であった。異年齢を含めて全体では 102 人中 44 名（約 43%）であった（表 1 参照）。

表 1. 乳児クラスを担当した学生の責任実習の有無

責任実習実施クラス	異年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児
責任実習の有無と 学生の数（名）	有 0 無 2	有 5 無 18	有 18 無 19	有 21 無 19

(2) 責任実習の内容

責任実習を行う際に0歳児クラスでは指導案の立案が有3、無2、内容の記述があった事例については手遊び・絵本の読み聞かせ3、制作を通した遊び2であった。1歳児クラスでは指導案の立案が有14、無5、絵本の読み聞かせ12、手遊び10、新聞紙遊び3、ピアノ（歌）3、歌1、制作（キノコづくり・マラカスづくり・ミノムシづくり）、シール貼りとお絵描き1、ペープサート、紙芝居1、新聞紙シアター、風船遊び1、リズム遊び1であった。2歳児クラスでは、指導案の立案が有13、無3、絵本の読み聞かせ10、手遊び9、歌5、新聞紙遊び2、ペープサート2、たんば筆遊び2、描画遊び（キノコの模様・飾り付け）2、スケッチブックシアター2、パネルシアター1、デカルコマニー1、リトミック1、ピアノ（歌）1、ミノムシづくり1、イガグリづくり1、クリスマスツリーづくり1、椅子取りゲーム1、爆弾ゲーム1であった（表2参照）。

表2. 乳児クラスを担当した学生の責任実習の内容例

実施クラス 指導案の有無	活動名	活動の流れや内容
0歳児クラス 指導案有	紙コップのロケットづくり	(無回答)
0歳児クラス 指導案有	手遊び「ちょきちょきだんす」リズム遊び	(大きさや中身の違うペットボトルの容器を、アンパンマンマーチのCDに合わせて、転がしたりふってみたりした。)
0歳児クラス 指導案有	ペットボトルのマラカスづくり	(準備物、乳児の様子予想、援助の仕方を書いた)
0歳児クラス 指導案有	手遊び「ころころころころたまご」絵本『だいすきほっとけーき』『ぶうさんのプー』	(無回答)
0歳児クラス 指導案有	手遊び「どんぐりころころ」絵本『どんぐり』	(りす、どんぐりの絵を見せてイメージしやすくした。食べるフリやどんぐりをあげるようなアレンジを入れながら絵本を読んだ。)
1歳児クラス 指導案有	風船を使って体を動かして遊ぶ	風船の感触を楽しむ友だちや保育士と一緒に遊ぶことの楽しさを味わう
1歳児クラス 指導案有	マラカスづくり (一日設定保育：朝の会・帰りの会でピアノを弾く)	物づくりの達成感を味わう
1歳児クラス 指導案有	手遊び「トントントントンひげ爺さん」絵本『だるまさんが』『もこもこもこ』『ねないこだれだ』『だんごさん』	(手遊びも絵本も一緒に楽しめるように元気に抑揚をつけてした。)
1歳児クラス 指導案有	紙コップと折り紙のミノムシづくり	(毎日手遊びをした後絵本を読んだ)
1歳児クラス 指導案有	手遊び「ディズニー」絵本『おとっと』一人ずつ名前を呼ぶ	(無回答)
1歳児クラス 指導案有	オリジナルのキノコづくり	(キノコにシールを貼っていき、出来上がったきのこを画用紙に貼り付ける、画用紙にもシールを貼っていく)(手遊び「アンパンマン・パンダウサギコアラ・魚がはねて」)

保育実習Ⅰ（保育所）における乳児クラスを担当した学生の責任実習の有無と実習内容についての一考察

1歳児クラス 指導案有	新聞紙遊び・新聞紙シアター	(手遊び「指が一本」・新聞紙を渡し破る・見本を見せる・破った新聞紙を宙に投げる・まるめてボールにして投げる・お化けの形をした袋に新聞紙を入れる)
1歳児クラス 指導案有	キノコづくり 指導以外季節の曲と『おはよう』をピアノで弾き歌い・絵本3冊読み聞かせ・手遊びもした。	(制作の導入でキノコの絵本、キノコの形を画用紙に殴り書き、好きなシールを貼る・午睡中にキノコに顔を付けてリボンを通してメダルにする)
1歳児クラス 指導案有	(内容の記述無)	(何時から始めるのか・終了時間・環境構成・どのような配置にするのか・先生は何人必要か・子どもたちは何人か・子どもたちは何をしておくのかを書いた・30分)
1歳児クラス 指導案有	手遊び・紙芝居・新聞紙遊び	
1歳児クラス 指導案有	手遊び・絵本の読み聞かせ	(導入では発達状況に合った曲を選択し、簡単に手遊びができるようスピードをゆっくりして進めた。子どもが絵本の世界に入れるよう絵をじっくり見せた。声のトーンを人物によって変えた。絵に指を指して表現しているものがかかるよう工夫した。)
1歳児クラス 指導案有	手遊び「とんとんとんひげじいさん」・絵本『いろがみびりびり』・新聞紙びりびり遊び・歌『おかたづけの歌』	(「とんとんとんひげじいさん」の手遊びをして絵本が読みやすい雰囲気を作る。「いろがみびりびり」の読み聞かせを行う。「新聞紙びりびり遊び」の説明を実際に新聞を破りながら行う。「新聞紙びりびり遊び」を皆で楽しむ。破ったものを袋にまとめ、子どもたちの上からふらす。片づけを促す「おかたづけの歌」を歌う。)
1歳児クラス 指導案有	手遊び「きのこ」絵本『きのこのこ』・制作「シール貼り」 「おえかききのこ」	絵本を見る。実習生のお話を聞く。完成形を見せ、実際に殴り書きをし、シールを貼る。「これは何かな?」と問いかける。先生1人につき子ども2人で2日に分けてした(2日合わせて30分くらい)待つ子は室内遊び。はちみつクレパスを持ち、なぐりがきをする。はちみつクレパス・画用紙を机に用意しておく。クレパスが終わったらシールを渡す。子どもが好きな色を選べるよう声掛けをする。完成したら子どもの目の前できのこの形に切る。切ったきのこののりをつけ子どもに渡し、土台に貼ってもらう。手をきれいに拭く。全員完成したら手遊び「きのこ」をする。ホワイトボードにみんなの作ったきのこを貼る。
1歳児クラス 指導案有	手遊び・絵本の読み聞かせ	(子どもたちが集中できるように注意点や声掛けの仕方を書きだした。)
1歳児クラス 指導案有	絵本の読み聞かせとその導入	(無回答)
1歳児クラス 指導案有	絵本の読み聞かせ	(無回答)
1歳児クラス 指導案有	絵本の読み聞かせ・手遊び・ピアノを弾いて歌を歌った	(無回答)
1歳児クラス 指導案有	手遊び「ぱんだうさぎこあら」・絵本『おはなだーれ』『こねこがにゃあ』	(無回答)
1歳児クラス 指導案有	朝の集まり・ペープサート『だるまさんがころんだ』・絵本の読み聞かせ	(無回答)
2歳児クラス 指導案有	制作「いが栗作り」(手遊び・絵本の読み聞かせ・ピアノ曲)	(導入手遊び「はじまるよ」2歳児は栗を知らない子、もいと先生に聞いて絵本『はネールのくりひろい』、栗の説明、栗の形の画用紙に栗の顔を描く、それを紙皿に貼る)

2歳児クラス 指導案有	トンボの羽の形に切った画用紙にデカルコマニーをする	(無回答)
2歳児クラス 指導案有	絵具と綿棒(5本束ねたもの)で木の貼った画用紙にポンポンと好きなだけして葉を貼る。(1時間)	(手遊び「はじまるよ」「ひげじいさん」「ふしぎなポケット」、絵本『そらまめくんのベッド』『私のワンピース』、写真を見せる、木の画用紙を見せて木のところに葉を置くよう伝える。綿棒を実演する。)
2歳児クラス 指導案有	新聞紙遊び	(手遊び「トントントントンアンパンマン」絵本『へんしんオバケ』新聞紙で見本を見せて蝶・おにぎり・ボールを作る歌『蝶』を歌いながら○○にとまれと言って止まる・ビリビリに破る・真真中に落ち葉のように舞い上げる・雪合戦・子どもが寝てその上に新聞紙をかける・劇遊び「赤ずきんちゃん」をしているのでオオカミのイラストを用意し、「おおかみさんが赤ずきんちゃんを食べる前に食べ物をあけて」と新聞紙を入れる)
2歳児クラス 指導案有	秋の紅葉・銀杏の木をイメージしたたんぼ筆遊び	導入手遊び絵本活動の説明、見本を見せる、たんぼ筆の制作をする、作品を廊下に飾る
2歳児クラス 指導案有	絵本の読み聞かせ、画用紙でクリスマスツリーを作る製作、椅子取りゲーム	(クリスマスに関する絵本の読み聞かせをし、読み終わった後で制作のクリスマスツリーへつながるように話をし、見本を見せて説明する。シートを敷いたり、画用紙を配ったり環境を整えて活動開始。画用紙を合わせて貼ってツリーを作り、マスキングテープや星の形などの飾りつけやタンポで雪のスタンプをつける。 椅子取りゲームをし、優勝した子へどんな気持ちかインタビューする。)
2歳児クラス 指導案有	秋の3曲をと『おはよう』を歌って朝の会をする・絵本の読み聞かせ・動物まねっこリトミックをする	(ピアノを弾いて秋の3曲と「おはよう」を歌い、一人ずつ名前を言ってもらい朝の会をする。活動の説明をして、絵本を読み、動物の塗り絵をしてリトミック遊びをした。)
2歳児クラス 指導案有	自己紹介・絵本の読み聞かせ・手遊び「むすんでひらいて」	(自己紹介をして、絵本の読み聞かせをして手遊びをした。指導案に書いた内容をそのまま行った。どのような声掛けをするか、子どもの様子はどうかを良く考えて15分程度)
2歳児クラス 指導案有	「おはよう」『大きな栗の木の下で』のピアノを弾いて歌う・きのこに模様をつける	(無回答)
2歳児クラス 指導案有	絵本の読み聞かせ・スケッチブックシアター	(無回答)
2歳児クラス 指導案有	絵本の読み聞かせ・ミノムシの製作	(絵本を読み、ミノムシの実物を見せ、友だちをつくることを提案し活動につなげる。シールの目をつけた紙コップに、折り紙をちぎって貼り付ける。)
2歳児クラス 指導案有	キノコの手遊び・キノコを飾り付け	(無回答)
2歳児クラス 指導案有	新聞紙で作ったさつまいもを使ったバクダンゲーム・手遊び「やきいもグーチャーパー」	(新聞紙をちぎったあとに新聞紙で遊びながら大きなやきいもを作った。分かりやすいように練習をふまえてした)
2歳児クラス 指導案有	ペープサート「風船」・歌を歌う『ふうせんのうた』・絵本の読み聞かせ『なにをたべてきたの?』	(『ふうせんのうた』は5種類くらい)

2歳児クラス 指導案有	手遊び「はじまるよ」・パ ネルシアター「カレーライ ス」・歌「カレーライス のうた」	(無回答)
2歳児クラス 指導案有	ペープサート（新聞紙の中 から動物・食べ物でてる クイズ）・新聞紙遊び	ペープサートを導入とし、新聞紙遊びをする。マントやス カートにしてごっこ遊び・をし、ビリビリにして雨にして 遊び、袋に詰めてオバケを完成させた。
2歳児クラス 指導案有	歌を歌う・子どもたちの名 前呼び	朝の会で弾き歌いし、子どもたちの名前呼びをした。
2歳児クラス 指導案有	手遊び「はじまるよ」・絵 本『くろくんとふしぎなと もだち』『あきいろのころ わん』	(無回答)
2歳児クラス 指導案有	スケッチブックシアター 「どんぐりころころ」	(自分で題材を決め、画用紙でつくった。子どもたちが興 味を持つように出てくるものを使って導入も行った。)

(無回答部分については回答を得ることができなかった。回答内容は原文ママ記載。)

5. 考 察

乳児クラスを担当した学生の内、責任実習を行った学生は約43%であり、1回生における初めての本格的な実習ということから、大学からの要望および保育施設の配慮などから参加実習がほとんどであり、責任実習を行った学生は半分に満たないと捉えることができる。0歳児クラスでは約22%が行ったと答えているが、指導案を立案していない学生も40パーセントおり、時間的にも短いケースもあったであろうと推測できる。

1歳児クラスを担当した学生では約49%、2歳児クラスでは約53%が責任実習を行っている。このことから、乳児クラスの中でも年齢が高くなるとともに、その発達段階から子どもたちはさまざまな遊びを体験し、言葉の発達や社会性も年齢を経るごとに育まれることから、年齢が高いクラスでは実習生の保育が担任保育者の指導の下で楽しめるであろうことが推測される。そのため、実習生に責任実習をと考え、実践に至る保育施設が多くなったことが見て取れる。

責任実習の内容としては0歳児クラスでは指導案の立案を行った上で、大きさや中身の違うペットボトルを準備し、『アンパンマンマーチ』（CD）に合わせて転がしたりふってみたりするリズム遊び、同様に0歳児が手に持ち、振って遊ぶペットボトルの「マラカスづくり」、0歳児に危険の少ない紙コップという素材を使っの「ロケットづくり」が見られ、その他手遊びでは「ちょきちょきダンス」「ころころたまご」「どんぐりころころ」、絵本では『だいすきホットケーキ』『ぶうさんのぶー』といった0歳児向けの教材が用いられている。

1歳児クラスでは指導案の立案を行った上で、感触を楽しみ、保育者や友だちと一緒に遊ぶことができる「風船遊び」、子ども自身が作って遊ぶ「マラカスづくり」、紙コップと折り紙を材料とした「ミノムシづくり」、キノコ（台紙）にシールを貼り、キノコを画用紙に貼り付ける「キノコづくり」、新聞紙をちぎる「ビリビリ遊び」などが見られ、1歳の発達において、ちぎる・貼るなどを楽しめるようになったことや季節が秋であったことから実習内容が考えられたことが伺える。手遊びでは「ひげじいさん」、

ディズニーキャラクターをモチーフにしたものも見られ、絵本では『もこもこもこ』『ねないこだれだ』『だんごさん』『いろがみびりびり』など1歳児向きのものが選ばれている。

2歳児クラスでは、指導案の立案を行った上で、手遊び「アンパンマン（ひげじいさん）」、絵本『へんしんオバケ』の読み聞かせ、新聞紙で見本を見せて蝶・おにぎり・ボールを作る・歌『蝶』を歌いながら〇〇にとまれと言って止まる・ビリビリに破る・真ん中に落ち葉のように舞い上げる・雪合戦・子どもが寝てその上に新聞紙をかける・(劇遊び「赤ずきんちゃん」を保育で体験しているので)オオカミのイラストを用意し、「おおかみさんが赤ずきんちゃんを食べる前に食べ物をあげて」と新聞紙を入れるといった「新聞紙遊び」やクリスマスに関する絵本の読み聞かせを導入とし、その後制作のクリスマスツリーへつながるように話をし、見本を見せて説明する。シートを敷いたり、画用紙を配ったり環境を整えて活動を開始、画用紙を合わせて貼ってツリーを作り、マスキングテープや星の形などの飾りつけやタンポ筆を使って雪のスタンプをつけるといった流れのある、時間的にも30分～60分くらいの実践ではないかと思われる事例が見られる。手遊びでは「はじまるよ」「大きな栗の木の下で」「やきいもグーチーパー」、絵本ではイガ栗づくりの導入で『はねーのくりひろい』『へんしんオバケ』『カレーライス』『くろくんとふしぎなともだち』など2歳児向けのものが選ばれていることが分かる。また、ルールのある遊びへの導入として新聞紙ボールを爆弾に見立てて、隣の子にボールを渡し、音楽が止まった時に持っている爆弾で爆発してしまうといった「爆弾ゲーム」、絵の具を塗りつけた紙を半分に折り、絵の具を転写させるデカルコマニーやパネルシアターやスケッチブックシアター、ペープサートなど多様な教材も用いられている。

これらのことから、保育実習Ⅰにおいて乳児クラスにおける責任実習を担当した学生においては、保育士の指導の下、子どもの姿からねらいと内容を考え、時間的な流れ、年齢やクラスの人数などそれぞれの子どもたちの発達段階に応じた内容で指導案を立案し、実践につなげていることが分かる。現場の保育士から指導を受ける中では、指導案の書き方、準備物、導入の仕方や時間の流れ、援助の具体的な方法、配慮といったことを目の前の子どもたちの実情を前提に考え、その後の実践からは、座学では得ることのできない貴重な多くの学びがあったのではないかと考えられる。

本学の実習前の責任実習に向けての指導では「保育実習指導Ⅰ」において、履修者全員が0～5歳児を対象とした指導案の一つを考え、模擬保育実践を行っている。しかしながら、全員が乳児を対象としてはいないため、実習先で責任実習を行うクラスが決まってから指導案作成に苦労した学生もいるであろうことが推測される。また、「乳児保育Ⅰ」の授業においては、0～2歳児の指導案の立案の仕方を学んだ上で、テキストの指導案例の模写、自身で絵本を選び、手遊びと絵本の読み聞かせを取り入れた2歳児対象の指導案の立案と模擬保育の実践を行っている。

実習における指導案の立案および責任実習の実践は学生にとって最もハードルが高く、基本的知識や基本的保育技術以外に、現場では子どもの実態の把握とその実態に適した保育内容、実態に応じた環境構成、子どもたちとのやり取りに即した判断力や対応力が求められる。そのため、年齢や発達を踏まえた子どもの姿からねらいを基に教材を選び、ねらいの達成に向けてどのような援助が必要かを考えることは非常に難しく、そのような力を養成するためには、実習前に集中的に指導する時間を設けるなどさらなる演習を取り入れることが望ましいのではないかとと思われる。

6. 結 論

今回の研究結果より、1回生の初めての保育所実習においておよそ半数弱が指導案を立案し、責任実習を行っていることが分かった。指導案立案においては、年齢ごとの発達に即した内容が求められる。特に乳児期は月齢ごとに発達の違いがあり、個人差も大きい時期である。また、保育のねらいや保育内容は子どもたちの姿から今何に興味・関心を持ち、どのような内容がふさわしいのかを考える必要がある。さらに、季節や乳児を取り巻く環境、乳児の一日の生活の流れ、週の指導の流れ、月や期の保育課程といったものすべてを考慮する必要があるという点では、現場の保育士の指導を前提としても実習生には非常にハードルが高いのではないかと推測される。先行研究で山田（2012）が指導計画を作成する力の具体的内容の構成について、活動の理由、教材研究、事前準備、導入の工夫・説明、時間配分としているように、導入時の工夫や時間配分についても学んでおく必要があると言える。

これらのことから、今後の「保育実習指導Ⅰ」の中では、事前指導として、各自が考えた指導案を具体的にシミュレーションし、グループワークなどで互いに検討し合う時間をより多く持つことが必要であると思われる。保育実習において、指導案を立案し、責任実習をすることは、大学では味わうことができない子どもたちを前にした感動体験であり、子どもたちの生の反応が返ってくるやりがいある場面でもあると思われる。そのため、責任実習を経て、自信を持ち、保育実践の楽しさ、より子どもたちをいとおしく思う気持ちなどを感じる学生もいる。また、たとえ反省点があったとしても、現場におけるかけがえのない学びであり、保育の魅力を感じることができる場でもあると思う。そのためには、実習指導では、学生が自信をもって責任実習を行えるよう、授業内での演習を増やし、演習内容を吟味する必要があると考えられる。

7. 今後の課題

今回の研究では乳児クラスが対象であったが、今後3～5歳児の幼児クラスにおいての実態の把握も同様に必要であると考えられる。

謝辞

ご多用の中、本調査にご協力いただいた学生の皆さんに心よりお礼申し上げたい。

<注>

- 1) 本調査を行った〇短期大学では2021年度は6月に教育実習が行われていたが、5日間の観察実習であるため、本格的な主体的な実習は保育実習Ⅰとなる。
- 2) 本稿では乳児とは児童福祉法により1歳未満を指すが、本研究では保育所における実習を研究対象とすることから、保育所では3歳以上児保育と区別するため0.1.2歳児を乳児保育とすることが多いため、0.1.2歳児を乳児クラスと捉えることとする。

<文献・参考研究>

- 馬場住子 板倉史郎 本田和隆 「保育実習Ⅰ（保育所）における乳児クラス担当学生の割合と実習内容についての一考察－実習を終えた学生へのアンケート調査を基に－」大阪千代田短期大学第52号 2022 pp.15-28. 大阪千代田短期大学
- 藤崎真知代 松永あけみ 溝川藍 杉山雅俊 井陽介 「幼稚園教育実習を通じた学生の学び：実習指導の効果」心理学紀要（明治学院大学）第28号 2018 pp.33-47. 明治学院大学
- 福田篤子 「学生の自己成長感を支えるために－保育所実習Ⅰの振り返りから－」田園調布学園大学紀要 第12号 2017 pp.141-150. 田園調布学園大学
- 斉藤葉子 大木みどり 「実習の事前・事後指導に関する研究（Ⅷ）－責任実習における導入の問題と課題 その2－」羽陽学園短期大学紀要 第9巻 第2号（通巻32号） 2012 羽陽学園短期大学
- 杉山喜美恵 「実習事前指導のあり方について：3. 保育責任実習の現状分析より」東海女子短期大学紀要 31巻 2005 pp.37-44. 東海女子短期大学
- 山田秀江 「保育実習Ⅱにおける責任実習に関する事前指導について（2）－責任実習の実際から見た事前指導のあり方－」四條畷学園短期大学紀要 41巻 2008 pp.47-58. 四條畷学園短期大学
- 山田秀江 「幼稚園教育実習における保育実践力の学びに関する一考察：責任実習の実践報告から」四條畷学園短期大学紀要 45巻 2012 pp.51-61. 四條畷学園短期大学